

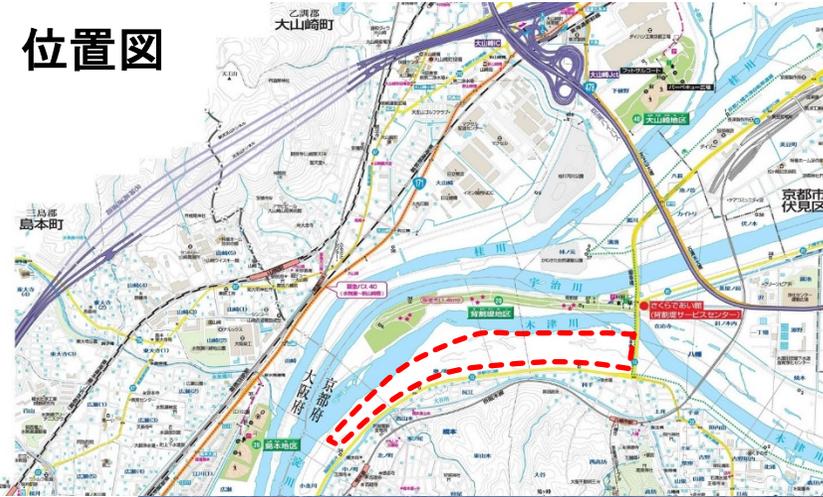
# 御幸橋野草地区の整備

令和5年3月

淀川河川事務所

# 御幸橋野草地区の位置

## 位置図



## 御幸橋野草地区(約10.3ha)について

- ・現在未供用であるが令和3年度から工事着手した。
- ・今後も順次整備を進め、令和5年度から部分開園をする予定
- ・地区公園整備計画はH29年に策定済み。



## 「広場」の設計の考え方

木津川の自然観察のバックヤードとして利用できる広場の整備

- ・現状の自然地形を活かした草地・観察広場
- ・観察イベント等の利用を促す多目的広場
- ・ジョギング・サイクリング者が休憩や風景を楽しめる広場



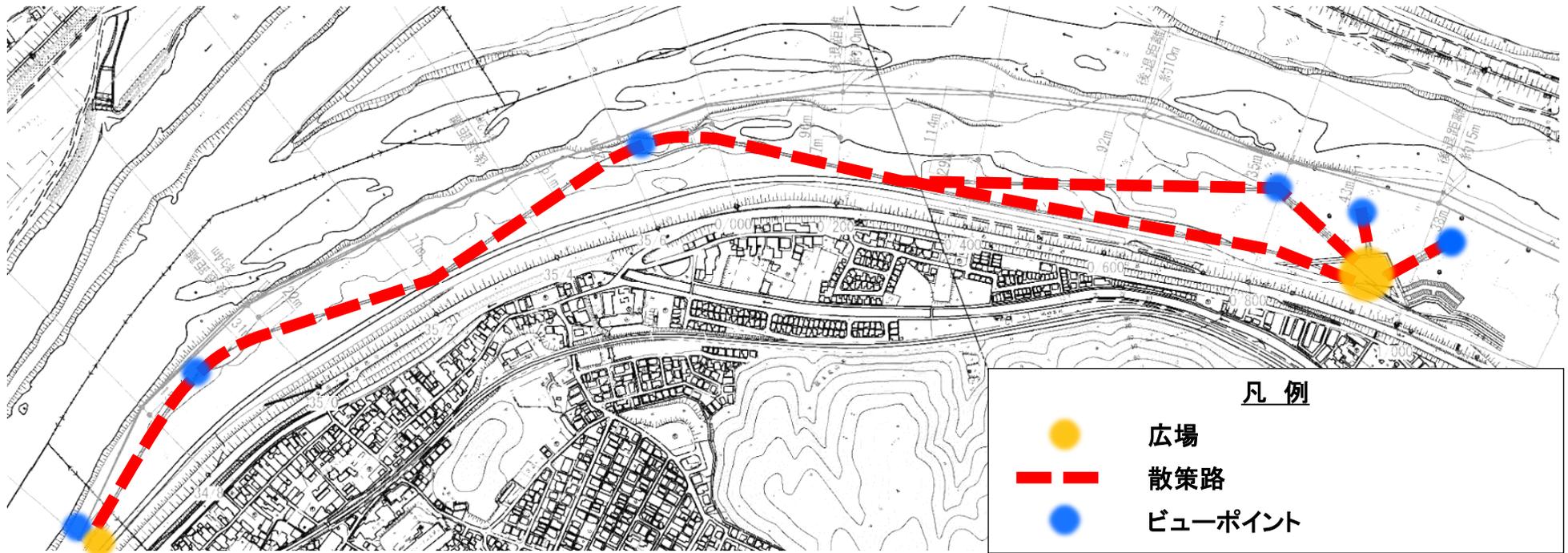
## 「園路(散策路)」の設計の考え方①

- ・多目的広場から草地・観察広場へのアプローチとなる「自然観察路」を設ける。
- ・自然観察路は、対岸の背割堤の桜並木や、京都を代表する山々の眺望を楽しめるように配置する。



## 「園路(散策路)」の設計の考え方②

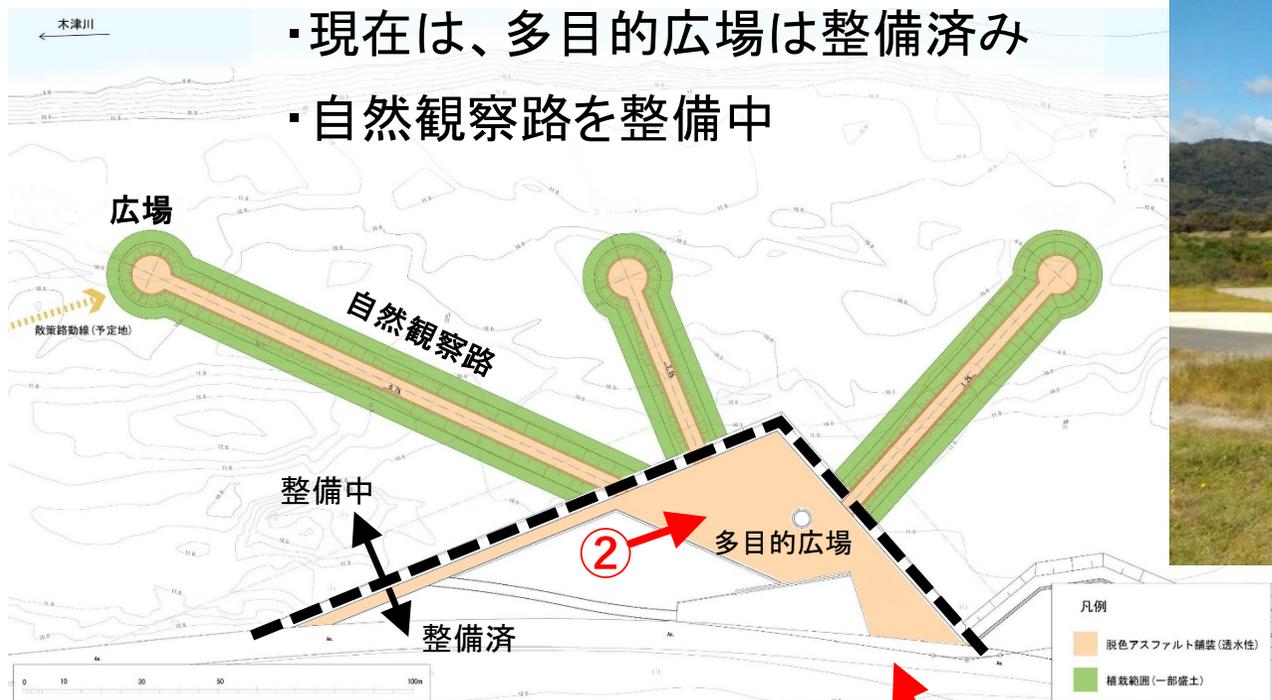
- ・散策路は、利用者の安全上や防犯上の理由から、見通しが確保できる線形とする。
- ・周辺の景観を楽しめるビューポイントを設ける。



整備計画図

## 現在の整備状況

- ・現在は、多目的広場は整備済み
- ・自然観察路を整備中



自然観察路の施工状況



利用イメージ

## 植物調査の結果と課題

- ・環境調査を実施した結果、クズ、カナムグラ、アレチウリ等のツル系植物が多く、特にクズは全域に広がっていた。
- ・ツル系植物以外でも、オオブタクサは整備箇所周辺の周辺に広がっていた。
- ・オオブタクサは、この地域には種子が埋土種子として休眠しており、整備等で攪乱を受けたときに一斉に発芽する。



オオブタクサ



アレチウリ



出典: 淀川河川水辺の国勢調査(河川環境基図作成)業務(令和3年3月)

※令和2年度の植生図のうち、御幸橋野草地区の優占群落、課題のある群落(繁殖力が強いツル系植物)及び河川敷本来の植物を抽出

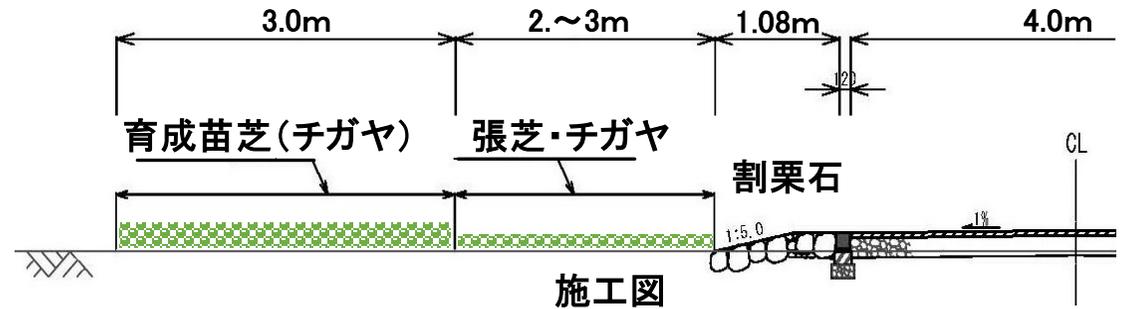
## 散策路の維持管理の課題

- ・オオブタクサ等の外来種やクズ等のツル系植物は繁殖力が強いいため、散策路・広場への侵入が予想される。
- ・快適な散策路・景観の確保のための維持管理が課題
- ・散策路の延長が長くなるため、維持管理コストの削減が必要

## 課題への対応・取り組み

### [ツル系植物の対策]

広場・散策路の端部から約5mの範囲に張芝及びチガヤ植付け、約1mの割栗石帯を設け、周囲のツル系植物の侵入を防止



### [オオブタクサの対策]

オオブタクサの生活史を踏まえた草刈りにより、生育を抑制

R4.7 広場周りの状況



広場周りをチガヤの植付けを行ったが、オオブタクサの繁茂が優勢となった。

オオブタクサの種子が落ちる前(8月)に除草を行った。

R4.11 広場周りの状況



結果、チガヤが良好に繁茂し、景観確保が出来た。除草タイミングを調整・実施することは、オオブタクサの進入阻止には有効と判明